

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	四国財務局長
【提出日】	2019年11月13日
【四半期会計期間】	第57期第1四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	穴吹興産株式会社
【英訳名】	ANABUKI KOSAN INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 穴吹 忠嗣
【本店の所在の場所】	香川県高松市鍛冶屋町7番地12
【電話番号】	087(822)3567(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理本部長 富岡 徹也
【最寄りの連絡場所】	香川県高松市鍛冶屋町7番地12(本社)
【電話番号】	087(822)3567(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理本部長 富岡 徹也
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第56期 第1四半期連結 累計期間	第57期 第1四半期連結 累計期間	第56期
会計期間	自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日	自 2018年7月1日 至 2019年6月30日
売上高 (千円)	30,727,456	26,936,446	99,669,272
経常利益 (千円)	2,755,503	2,235,165	5,789,552
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	1,697,014	1,334,918	3,395,294
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,722,628	1,357,541	3,439,244
純資産額 (千円)	23,471,323	25,970,578	24,964,710
総資産額 (千円)	77,854,291	85,569,406	83,902,918
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	318.18	250.29	636.60
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	29.5	29.7	29.1

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、当第1四半期連結会計期間より報告セグメントの名称を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

また、アルファデザインスタジオ(株)は重要性が増したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界経済に対する懸念などを背景に、景気の先行きに対しては慎重さが強まってきておりますが、堅調な企業収益を背景に雇用環境等の改善が進み、景気は総じて緩やかな回復基調を続けました。

不動産業界においては、用地仕入れ価格及び建設工事費等の原価高騰による不動産価格の高額化等の懸念材料はあるものの、政府による住宅取得支援制度や低金利環境により、引き続き、消費者の購買意欲は堅調に推移しました。

このような状況のなかで、当社グループは主力事業である分譲マンション事業において、更なる販売力の強化により早期売上に注力するとともに、当社グループの強みであるマーケティング力を活かし、新たな需要の掘り起こしや厳選した用地仕入れを行ってまいりました。また、それら主力事業が堅調に推移するなかにおいて、今後の新たな収益の柱を育てるべく、介護医療関連事業、小売流通関連事業、エネルギー関連事業及びその他新規事業等への投資を積極的に進めてまいりました。

当第1四半期連結累計期間における売上高は26,936百万円（前年同期比12.3%減）、営業利益2,275百万円（同19.5%減）、経常利益2,235百万円（同18.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,334百万円（同21.3%減）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、従来「その他事業」として表示しておりました報告セグメントの名称を、その事業内容をより明瞭にするため、「観光事業」として変更しております。

不動産関連事業

不動産関連事業におきましては、主力である分譲マンションの販売について、当第1四半期連結累計期間における契約戸数は372戸（前年同期比25.6%減）、売上戸数は615戸（同3.6%減）となりました。契約戸数及び売上戸数の減少は、当第1四半期連結累計期間における新規販売開始マンション及び完成引渡マンションが少なかったことによるものであります。なお、通期売上予定戸数1,871戸のうち、当第1四半期連結会計期間末における未契約住戸は131戸を残すだけとなっており、引き続き堅調な状況で推移いたしました。

この結果、不動産関連事業の売上高は、19,286百万円（前年同期比13.5%減）、営業利益は1,996百万円（同20.7%減）となりました。

なお、分譲マンションにおける他社との共同事業における戸数については、当社事業割合で計算しております。

人材サービス関連事業

人材サービス関連事業におきましては、新たなコーポレートスローガン「ひとに翼を。」を掲げ、女性の労働参加率の向上や海外人材の活用など、中四国の労働市場の現状に即した地域経済の活力の維持・向上に必要な施策の展開により、中四国での多様な雇用機会の創出を通じた収益の拡大に注力いたしました。

この結果、人材サービス関連事業の売上高は1,532百万円（前年同期比2.8%減）、営業利益は51百万円（同11.6%減）となりました。

施設運営事業

施設運営事業におきましては、瀬戸内国際芸術祭等による訪日外国人数の増加に支えられ、主力であるホテル事業において、ホテルの客室稼働率の高稼働状態が持続しております。また、客室数の増加や快適性の向上等を目的として、2019年7月より「琴平パークホテル」（香川県仲多度郡）にて全館の改装工事を開始いたしました。

この結果、施設運営事業の売上高は1,558百万円（前年同期比4.0%増）、営業利益は62百万円（同32.1%増）となりました。

介護医療関連事業

介護医療関連事業におきましては、2019年9月に当事業の31施設目となるサービス付き高齢者向け住宅「アルファリビング姫路城北」（兵庫県姫路市）をオープンいたしました。

この結果、介護医療関連事業の売上高は1,264百万円（前年同期比46.6%減）、営業利益は63百万円（同64.0%減）となりました。

なお、売上高及び営業利益の減少の主な要因は、前第1四半期連結会計期間において「アルファリビング高松紺屋町」（香川県高松市）の売却を実施したことによるものであります。

小売流通関連事業

小売流通関連事業におきましては、2016年9月より長崎県長崎市にて事業展開を行っているスーパーマーケット事業において、引き続き商品力、販売力及び売り場（提案力）等の改革・改善に注力し、収益体制の確立を目指しました。また、2019年7月には、旧住吉店（長崎県長崎市）跡地における分譲マンションとの複合開発の新店舗「ジョイフルサン住吉店」をグランドオープンいたしました。

この結果、小売流通関連事業の売上高は1,778百万円（前年同期比6.0%増）、営業損失は1百万円（前年同期は営業損失1百万円）となりました。

エネルギー関連事業

エネルギー関連事業におきましては、高圧一括受電により分譲マンション等へ割安な電力提供を行う電力提供事業において、当社グループ以外の分譲マンション事業者等への営業活動を強化し、サービス提供戸数及び施設の増加に注力いたしました。

この結果、エネルギー関連事業の売上高は1,056百万円（前年同期比11.9%増）、営業利益は95百万円（同109.8%増）となりました。

観光事業

観光事業におきましては、地域に密着した事業展開に注力し、行政と連携した訪日外国人に対応した企画等にも取り組みました。

この結果、観光事業の売上高は459百万円（前年同期比26.3%増）、営業利益は6百万円（前年同期は営業損失21百万円）となりました。

(2) 財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末の資産、負債及び純資産の状況は、次のとおりであります。

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は60,318百万円となり、前連結会計年度末に比べ592百万円増加いたしました。これは主に現金及び預金が1,085百万円増加したことによるものであります。固定資産は25,250百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,074百万円増加いたしました。これは主に建物及び構築物が808百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、85,569百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,666百万円増加いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は28,683百万円となり、前連結会計年度末に比べ584百万円増加いたしました。これは主に短期借入金が増加したことによるものであります。固定負債は30,915百万円となり、前連結会計年度末に比べ76百万円増加いたしました。これは主に社債が増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、59,598百万円となり、前連結会計年度末に比べ660百万円増加いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は25,970百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,005百万円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益1,334百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は29.7%（前連結会計年度末は29.1%）となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	23,000,000
計	23,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,767,800	5,767,800	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式 単元株式数100株
計	5,767,800	5,767,800	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高(千円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日	-	5,767,800	-	755,794	-	297,590

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年6月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 434,300	-	権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,332,100	53,321	同上
単元未満株式	普通株式 1,400	-	-
発行済株式総数	5,767,800	-	-
総株主の議決権	-	53,321	-

【自己株式等】

2019年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
穴吹興産(株)	香川県高松市 鍛冶屋町7-12	434,300	-	434,300	7.53
計	-	434,300	-	434,300	7.53

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,276,138	9,361,708
受取手形及び売掛金	1,581,562	1,646,256
販売用不動産	14,082,286	14,348,601
仕掛販売用不動産	33,198,667	31,992,226
その他のたな卸資産	293,985	302,052
その他	2,304,271	2,677,877
貸倒引当金	10,270	10,029
流動資産合計	59,726,642	60,318,693
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,656,200	11,464,772
機械装置及び運搬具(純額)	506,846	492,462
土地	7,476,545	7,811,088
建設仮勘定	221,564	227,564
その他(純額)	637,514	650,423
有形固定資産合計	19,498,671	20,646,312
無形固定資産		
のれん	149,351	143,583
その他	373,209	377,597
無形固定資産合計	522,561	521,180
投資その他の資産		
投資有価証券	425,811	427,230
繰延税金資産	739,145	585,093
その他	3,024,611	3,105,148
貸倒引当金	34,525	34,252
投資その他の資産合計	4,155,042	4,083,220
固定資産合計	24,176,275	25,250,713
資産合計	83,902,918	85,569,406

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,528,880	8,798,089
短期借入金	1,752,000	5,203,000
1年内償還予定の社債	1,591,000	1,588,000
1年内返済予定の長期借入金	1,755,911	1,907,196
未払法人税等	1,015,203	704,389
賞与引当金	671,236	281,986
前受金	8,607,510	7,297,457
その他	3,177,799	2,903,503
流動負債合計	28,099,540	28,683,623
固定負債		
社債	11,014,100	11,605,700
長期借入金	16,665,562	16,082,013
退職給付に係る負債	1,010,732	1,018,659
役員退職慰労引当金	63,286	63,286
繰延税金負債	4,703	4,484
その他	2,080,284	2,141,060
固定負債合計	30,838,667	30,915,203
負債合計	58,938,207	59,598,827
純資産の部		
株主資本		
資本金	755,794	755,794
資本剰余金	821,283	821,283
利益剰余金	23,292,335	24,276,232
自己株式	444,929	444,929
株主資本合計	24,424,483	25,408,380
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,363	5,551
その他の包括利益累計額合計	5,363	5,551
非支配株主持分	545,590	567,749
純資産合計	24,964,710	25,970,578
負債純資産合計	83,902,918	85,569,406

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年7月1日 至2018年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年7月1日 至2019年9月30日)
売上高	30,727,456	26,936,446
売上原価	24,268,325	20,926,035
売上総利益	6,459,131	6,010,411
販売費及び一般管理費	3,633,244	3,734,964
営業利益	2,825,886	2,275,446
営業外収益		
受取利息	3,863	6,782
受取配当金	7,421	5,259
補助金収入	5,000	116,998
その他	40,136	9,496
営業外収益合計	56,421	138,537
営業外費用		
支払利息	69,212	73,576
社債発行費	21,518	13,007
支払手数料	8,629	68,953
その他	27,445	23,281
営業外費用合計	126,804	178,818
経常利益	2,755,503	2,235,165
特別利益		
固定資産売却益	14,167	-
特別利益合計	14,167	-
特別損失		
固定資産除却損	-	0
投資有価証券評価損	-	20,963
特別損失合計	-	20,963
税金等調整前四半期純利益	2,769,671	2,214,201
法人税、住民税及び事業税	935,351	702,557
法人税等調整額	111,967	153,915
法人税等合計	1,047,319	856,473
四半期純利益	1,722,352	1,357,728
非支配株主に帰属する四半期純利益	25,337	22,809
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,697,014	1,334,918

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年7月1日 至2018年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年7月1日 至2019年9月30日)
四半期純利益	1,722,352	1,357,728
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	276	187
その他の包括利益合計	276	187
四半期包括利益	1,722,628	1,357,541
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,697,290	1,334,731
非支配株主に係る四半期包括利益	25,337	22,809

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

アルファデザインスタジオ(株)は重要性が増したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)
減価償却費	276,582千円	287,195千円
のれんの償却額	6,390	5,768

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年9月21日 定時株主総会	普通株式	293,341	55	2018年6月30日	2018年9月25日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年9月26日 定時株主総会	普通株式	346,675	65	2019年6月30日	2019年9月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	不動産 関連事業	人材サービス 関連事業	施設運営 事業	介護医療 関連事業	小売流通 関連事業	エネルギー 関連事業	観光事業
売上高							
外部顧客への売上高	22,297,654	1,575,898	1,499,057	2,369,599	1,677,158	944,066	364,022
セグメント間の内部売上高 又は振替高	78,397	5,794	10,042	461	1,068	9,466	2,186
計	22,376,051	1,581,692	1,509,100	2,370,061	1,678,226	953,533	366,208
セグメント利益又は損失()	2,518,656	58,359	47,670	175,686	1,079	45,437	21,147

(単位:千円)

	合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高			
外部顧客への売上高	30,727,456	-	30,727,456
セグメント間の内部売上高 又は振替高	107,417	107,417	-
計	30,834,874	107,417	30,727,456
セグメント利益又は損失()	2,823,583	2,303	2,825,886

(注)1. 調整額は、セグメント間取引の消去であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	不動産 関連事業	人材サービス 関連事業	施設運営 事業	介護医療 関連事業	小売流通 関連事業	エネルギー 関連事業	観光事業
売上高							
外部顧客への売上高	19,286,941	1,532,221	1,558,331	1,264,843	1,778,279	1,056,064	459,764
セグメント間の内部売上高 又は振替高	89,866	5,139	11,070	453	844	11,651	2,072
計	19,376,808	1,537,360	1,569,402	1,265,296	1,779,123	1,067,716	461,837
セグメント利益又は損失()	1,996,528	51,582	62,958	63,241	1,525	95,345	6,267

(単位:千円)

	合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高			
外部顧客への売上高	26,936,446	-	26,936,446
セグメント間の内部売上高 又は振替高	121,098	121,098	-
計	27,057,545	121,098	26,936,446
セグメント利益又は損失()	2,274,397	1,049	2,275,446

(注)1. 調整額は、セグメント間取引の消去であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、従来「その他事業」として表示しておりました報告セグメントの名称を、その事業内容をより明瞭にするため、「観光事業」として変更しております。この変更はセグメント名称の変更であり、セグメント情報に与える影響はありません。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報についても、変更後の名称で表示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	318円18銭	250円29銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	1,697,014	1,334,918
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	1,697,014	1,334,918
普通株式の期中平均株式数(千株)	5,333	5,333

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月12日

穴吹興産株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 渡辺力夫

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小川伊智郎

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている穴吹興産株式会社の2019年7月1日から2020年6月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、穴吹興産株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。